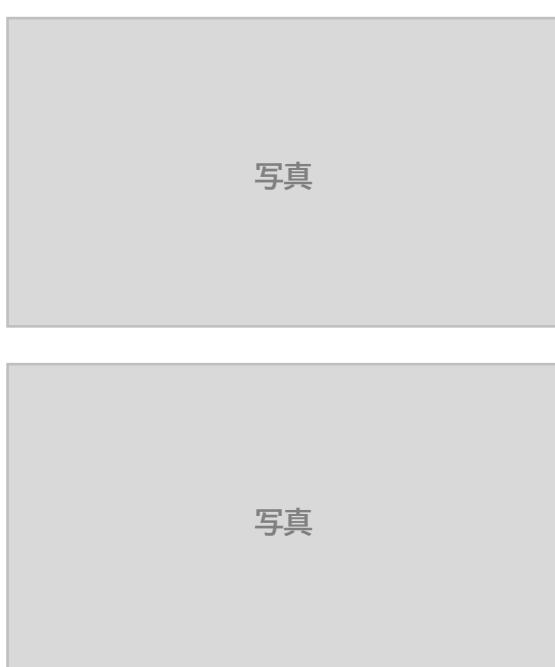


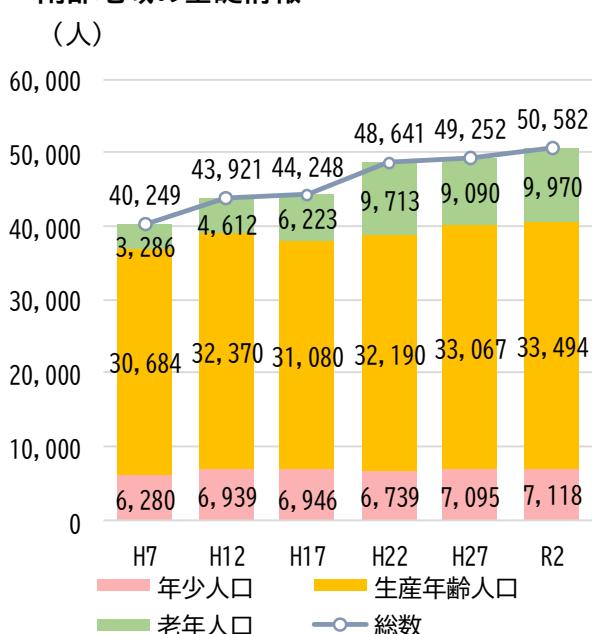
(5) 南部地域

1) 南部地域の概況

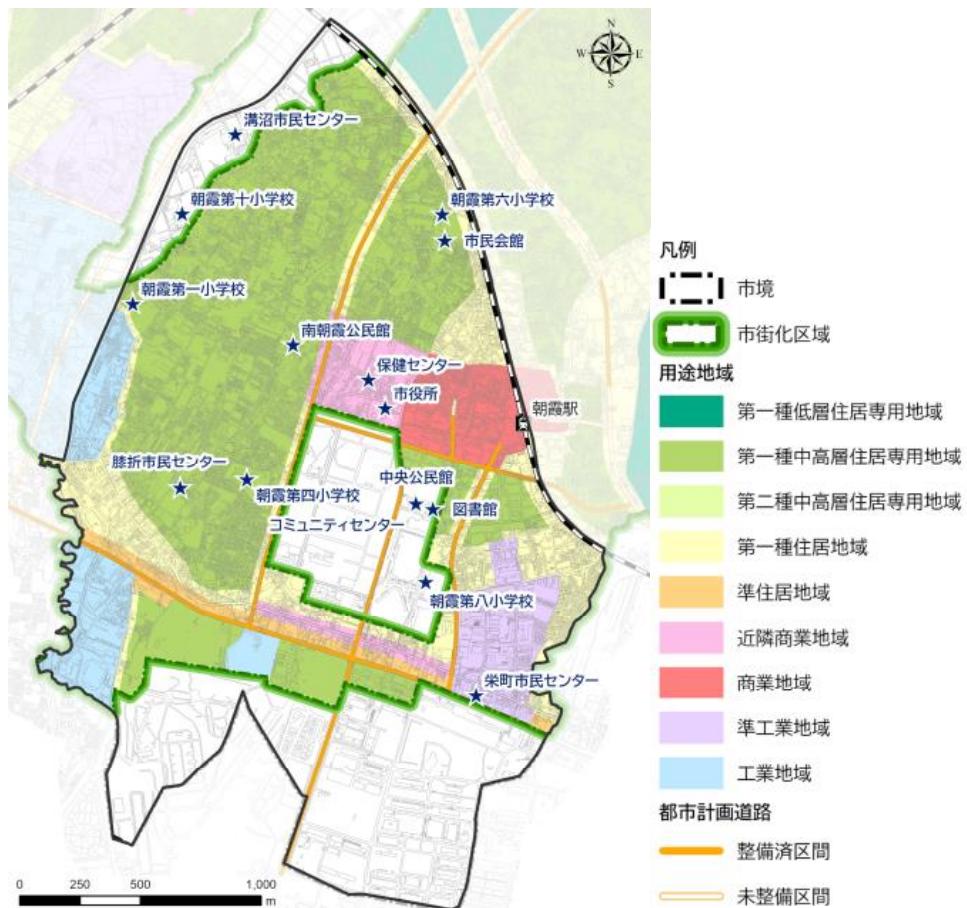
- ・当地域は本市の南部に位置し、地域の西側から北部を黒目川が流れています。地域の西側は新座市、南東側は和光市、南側は東京都練馬区に接しています。
- ・東武東上線が東側を走っており、朝霞駅があります。
- ・当地域の人口は増加傾向が継続しており、令和2（2020）年に人口が5万人程度で、市内5地域のうち最多人口となっています。老人人口も増加傾向にあり、令和2（2020）年の老人人口は平成12（2000）年の2倍以上となっています。（図①参照）
- ・当地域には市役所をはじめ、中央公民館、図書館、総合体育館等の広域的な機能を有する公共施設が立地するほか、医療、商業、子育て等の都市機能も多く立地しており、都市機能が充実しています。（図②③参照）
- ・当地域南側の国道254号沿道や黒目川沿いには、工業系用途地域が指定され企業等の立地が見られますが、住宅用地も多く、住工混在した状況となっています。（図②③参照）
- ・当地域内には黒目川の水辺空間や基地跡地等のみどりが残され、また地域の南側には川越街道の宿場等の歴史的文化資源が存在します。（図③参照）
- ・当地域では洪水、土砂災害等の水災害のリスクは他の地域より少ないですが、黒目川周辺には荒川及び新河岸川水系において洪水が発生した場合一部水害リスクが想定され、幸町、栄町、本町では住宅が密集しているエリアでは地震や火災が起きた際に建物が延焼するリスクがあります。
- ・当地域の中央に基地跡地があり、シンボルロードで行われるASAKA STREET TERRACEには毎年市内外から多くの人が訪れます。



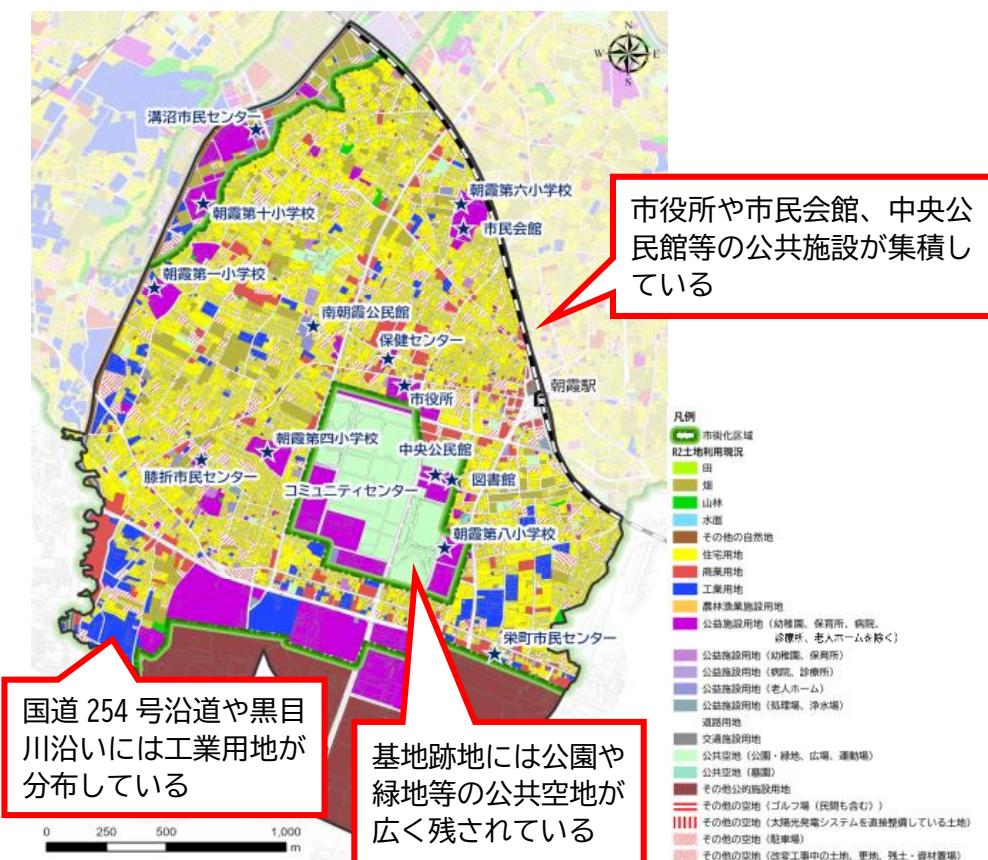
＜南部地域の基礎情報＞



図①：人口と年齢構成の推移



図②：用途地域の指定状況



図③：土地利用の状況（令和2（2020）年度時点）

2) 南部地域のまちづくりに対する市民の想い

市民アンケートやまちづくりサロンから把握される地域のまちづくりに対する市民の想いを以下に整理します。

<市民アンケートより>

○大切に思う場所

- ・朝霞の森・青葉台公園・朝霞中央公園
 - ・黒目川
 - ・朝霞駅周辺
- (店舗や飲食店等を含む)

○住まいの近くの地域にあったらいいと思う場所

- ・買い物ができる場所
- ・飲食ができる場所
- ・みどりが多く自然が豊かな場所

<まちづくりサロン（地域版）より>

※サロンでは「持続可能」をテーマに意見交換しましたが、まちづくりのテーマ設定を踏まえ「自然・環境」に変更しました。

まちづくりの5か条(将来への想い)

安全・安心

狭いみちでも安全で、
いざというときにも安心

議論の要点

道が狭い、歩道がないといった課題が多く聞かれ、狭い道でも安全・安心でありたいという意見がありました。

賑わい

歴史や地形を公民で活かして
朝霞を楽しむ

議論の要点

商店街などの賑わいを高めるだけではなく、藤折宿や坂の多い地形といった、ここにしかない歴史や地理を楽しんでもらいたい、一方で歴史を残していくために公・民が連携する必要がある、といった意見がありました。

自然・環境（※）

市民の手で緑や環境を
もっと良くしていく

議論の要点

みどりを増やしたり残したりすることを行政任せにするのではなく、市民ボランティアの力を合わせる、樹木だけでなく花を飾って楽しむ、といった参加型でみどりの保全・創出を目指す意見がありました。

暮らし

子どもから高齢者、障がい者も
安心して暮らせる環境づくり

議論の要点

比較的の子どもが多く、ファミリー世帯が暮らしやすい反面、坂が多くて高齢者が暮らせるのは元気なうちだけ、といった議論から、どの世代・属性の方々にとっても暮らしやすいまちを目指すべきという意見がありました。

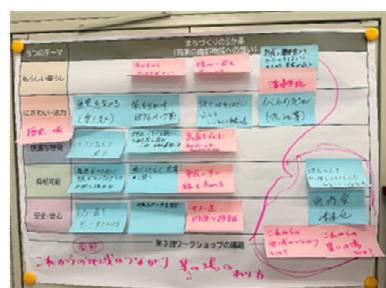
快適な移動

高齢化に対応した
持続可能な移動手段の確保

議論の要点

高齢者にとって移動手段は必須だが、将来的にも持続可能な公共交通にしなければならないといった課題から、住民もバスにあえて乗らなければ残せない、自動運転などの技術を活用する、などの意見がありました。

【ワークシートの様子】



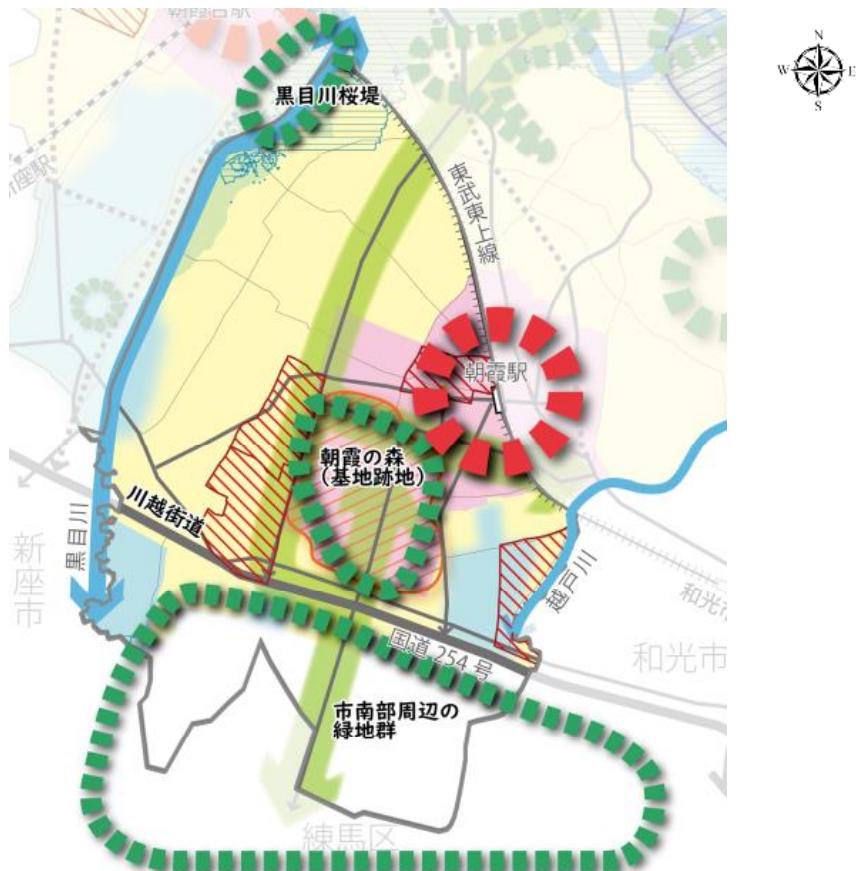
3) 南部地域のまちづくりの方針

地域の概況と市民の想いを踏まえ、南部地域のまちづくりの方針とその実現に向けた取組の場所を示した方針図を以下に整理します。

<方針> (南部地域の特性に応じて重点的に行う取組方針)

- 方針1 地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクの低減に向けた対策の充実と、交通安全対策の強化により、誰もが安全・安心に生活できる住環境を整えます。
- 方針2 黒目川の水辺空間や基地跡地等のみどりが残る豊かな自然環境や、川越街道の歴史的文化資源等の適切な維持管理・活用を図ります。
- 方針3 朝霞駅や基地跡地周辺の充実した都市機能や公共空間を生かし、官民連携による一体的にぎわいや活力の創出を図るとともに、地域内に立地する企業等との連携・協働による地域経済活性化に向けた取組を推進します。

<方針図>



【方針1に関する凡例】

- 水害による浸水リスクの低減を図るゾーン
- 地震・火災による延焼リスクの低減を図るゾーン(住宅が密集しているエリア)
- 地震・火災による延焼リスクの低減を図るゾーン(延焼クラスター)
- 交通安全対策の強化を図るゾーン

【方針2に関する凡例】

- みどりの拠点
- みどりの軸(道路軸)
- みどりの軸(河川軸)

【方針3に関する凡例】

- 都市拠点
- 駅周辺でにぎわいの形成を図るゾーン
- 企業等との連携・協働を図るゾーン
- 新たな拠点形成ゾーン(基地跡地)

【その他凡例】

- 住みよいくらしゾーン
- 鉄道
- 道路(国道)
- 道路
- 整備済
- 未整備
- 整備済
- 未整備

4) 南部地域のテーマ別の取組

地域のまちづくりの方針を踏まえ、テーマごとに地域の特徴（良いところや課題等）に対応した取組を整理します。

テーマ「安全・安心」

※全①～全⑨：全体構想の取組との関係性（P.28 参照）

特 徵

- ・黒目川右岸沿いの家屋倒壊等氾濫想定区域等、災害の危険性が高いエリアに住宅地や施設が点在している
 - ・浸水想定区域内に住宅地や福祉施設等が点在している

取組

- ・黒目川右岸沿いの家屋倒壊等氾濫想定区域等、災害の危険性の高いエリアからの居住の誘導 全①
 - ・浸水想定区域内での開発と合わせた水害対策の指導（雨水流出抑制施設の整備や垂直避難ができるようすること、避難行動計画を策定し訓練を定期的に行うこと等） 全①
 - ・水害リスクの低減に向けた雨水・排水対策の検討（水路・側溝の改修等） 全①
 - ・総合的な治水対策の検討（国や県と連携した特定都市河川の指定等による流域治水の検討） 全①



特 徵

- ・幸町、本町、栄町の住宅密集地では地震・火災による延焼リスクが高い
 - ・狭い道路や行き止まり道路が多く避難を阻害

取組

- ・幸町・本町・栄町周辺における住宅密集地の防災機能強化や私道を含めた狭い道路の交通環境の整備、防火対策の推進 全③
 - ・防火・準防火地域の指定による防火対策の推進 全③

特 徵

- ・災害時の被害を拡大させないための生活環境の形成が求められる

取組

- ・準防火地域での防火対策の推進 **全③**

特 徵

- ・災害時の円滑な復旧できる準備を整えておくことが求められる

取組

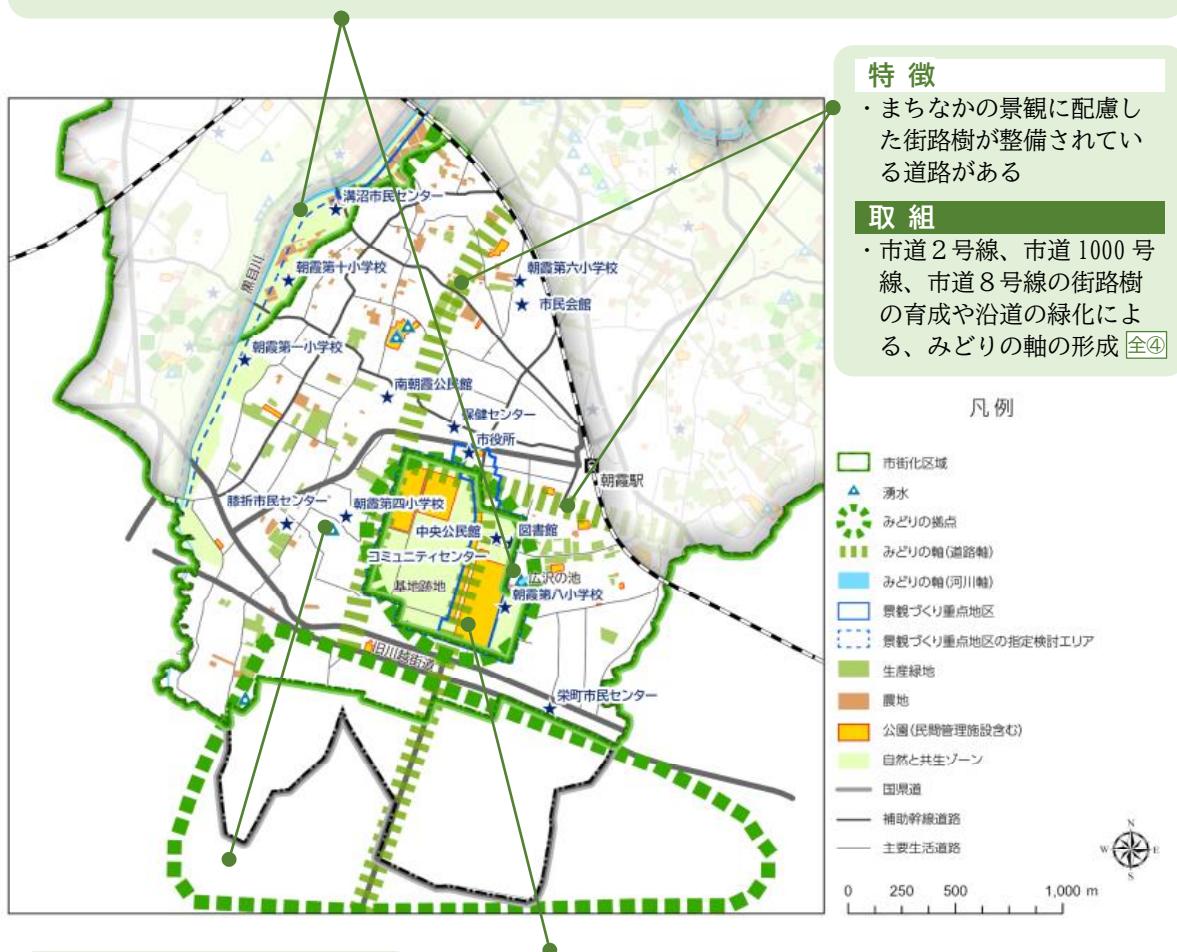
- ・基地跡地の防災拠点化の検討 全④
 - ・駅前通りやシンボルロード等の無電柱化の促進 全⑥

特徴

- ・黒目川右岸の河川敷に自然地が多く、豊かな自然環境を有している
- ・桜並木は市民に親しまれている
- ・地域内に生産緑地や農地、湧水等のみどりの資源が存在する
- ・緑地の分布が基地跡地に偏っている
- ・マンションが増加し緑が減少している
- ・市街化調整区域内に農地が分布している

取組

- ・黒目川周辺の水辺空間の保全・活用 (川沿いの親水性の向上) 全④
- ・景観の保全を進めるための景観づくり重点地区の指定の検討 (黒目川周辺) 全⑧
- ・市民との協働による桜並木の適正な維持管理 全④⑦
- ・生き物が集う緑地、湧水の保全 全④
- ・貴重な湧水である広沢の池の保全 全④
- ・都市農地の保全や有効活用 全④⑥



特徴

- ・川越街道の面影を残した史跡があり、歴史的・文化資源を有している

取組

- ・旧川越街道の歴史的文化資源(膝折宿)の保全とまちづくり資源としての活用 全⑦

特徴

- ・基地跡地の緑地等は市民の憩いの場として利用されている

取組

- ・基地跡地公園の整備 全④
- ・みどりの拠点の形成・利活用 (周辺施設と連携した地域の交流や活性化の推進) 全④⑤⑥⑦

テーマ「快適な移動」

※全①～全⑧：全体構想の取組との関係性（P.40 参照）

特 徵

- ・橋梁の老朽化等が進行しており、適切な維持管理が求められている

取組

- ・橋梁の適切な維持管理 **全②**

特 徵

- ・道路に勾配があり、高齢者等の移動を制約している

取組

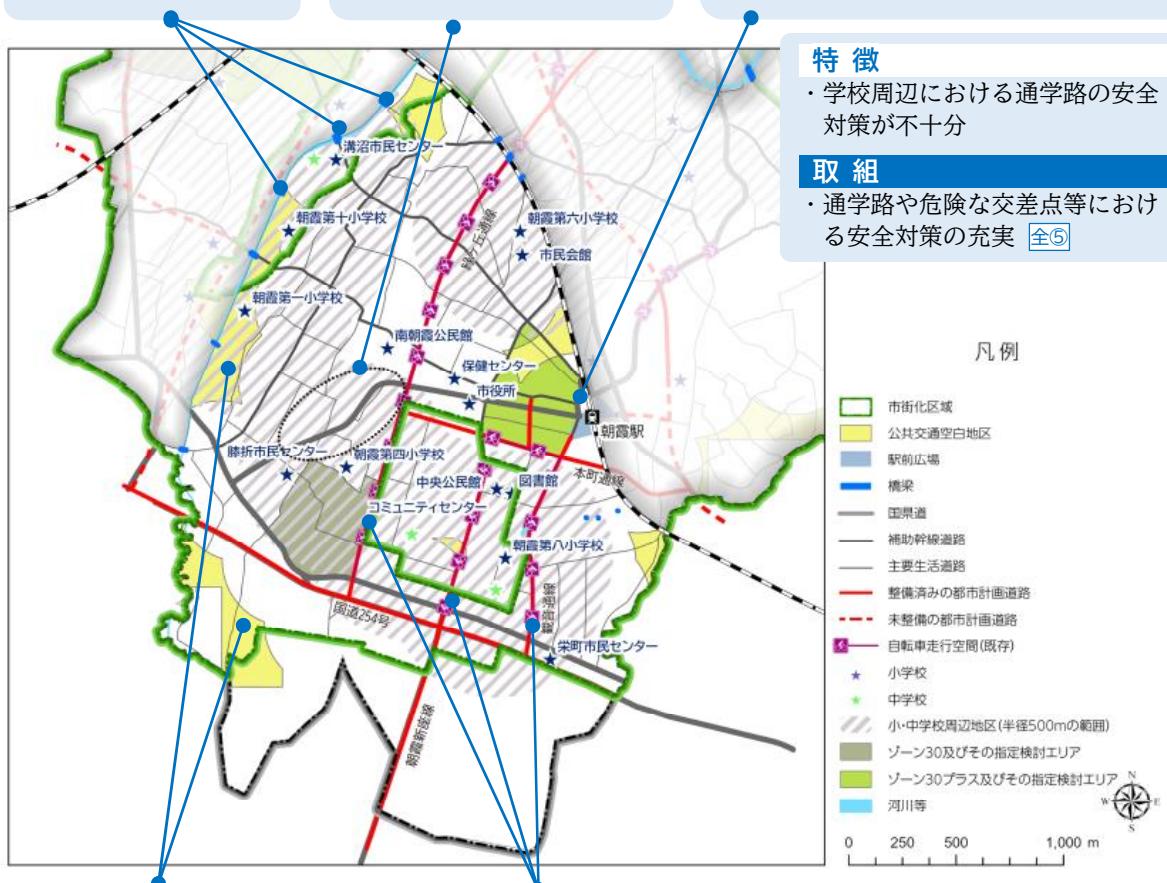
- ・ひざおり通り等の坂道周辺における、まちなかベンチの設置 **全8**

特 徵

- ・交通結節点となる主要駅（朝霞駅）が立地している

取組

- ・駅周辺におけるバリアフリーやユニバーサルデザインにも配慮した交通結節機能の強化や、人中心のウォーカブルな空間の確保 [全8](#)



特 徵

- ・膝折、溝沼地区では、公共交通の利便性の低いエリア（公共交通空白地区）が存在する

取組

- ・地域と連携した多様な移動手段の検討（膝折、溝沼地区の一部における、わくわくワゴン等）**全⑦**

特 徵

- #### ・自転車道が整備されている

取組

- ・安全で連続した自転車通行空間の確保 **全③**

特 徵

- 市道1号線は、主要な生活道路であるものの、連続した歩道が整備されていない

取組

- ・市道1号線の連続した歩行空間の確保 全④⑧

特 徵

- ・小・中学校周辺に限らず交通安全対策の充実が求められている（保育園・幼稚園等や大規模事業所周辺等）

取組

- ゾーン30・ゾーン30プラスエリアの指定による面的な交通安全対策 全④
 - 朝霞駅南口周辺地区交通安全対策基本構想に基づく交通安全対策（駅前通りの一方通行化等）全④

特徴

- ・朝霞駅周辺では、公共空間を活用したイベントが継続的に開催されている

取組

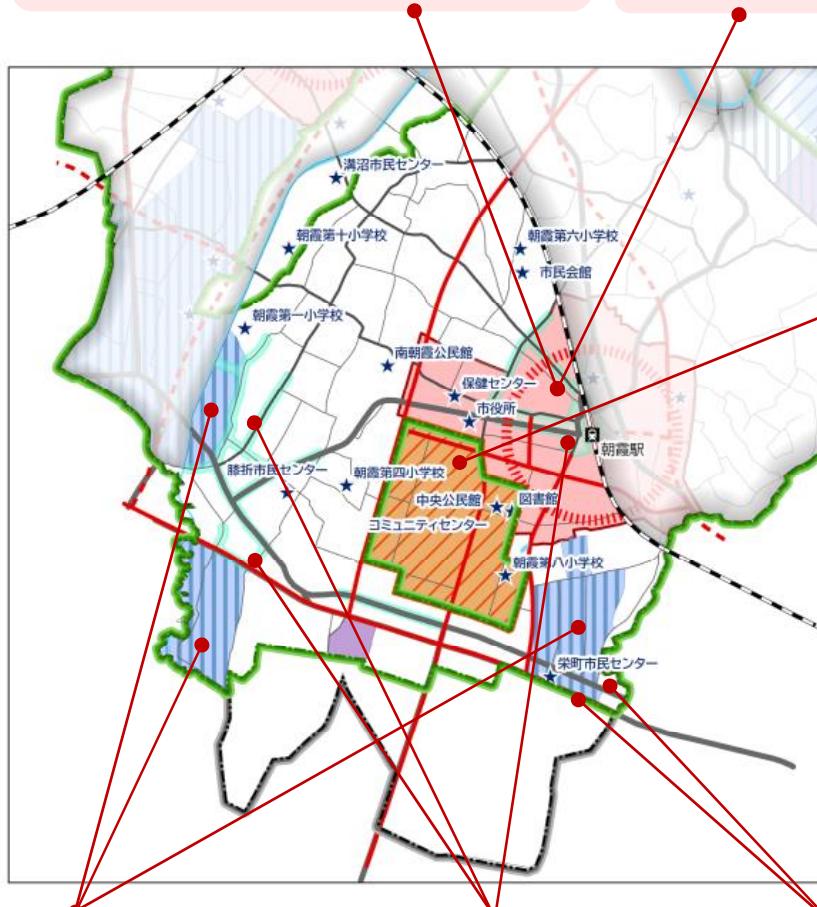
- ・市役所をはじめ、主要な公共施設の立地を生かし、朝霞駅前の活性化と連動した回遊性の高い歩道・広場の設置・充実等により中心拠点としての魅力向上 **全①**

特徴

- ・駅周辺は交通の利便性が高く、店舗や医療施設等の都市機能が一定程度集積している

取組

- ・駅周辺におけるバリアフリーやユニバーサルデザインにも配慮した交通結節機能の強化や、人を中心のウォーカブルな空間の確保 **全③**



特徴

- ・基地跡地を生かし、にぎわい創出のポテンシャルがある

取組

- ・基地跡地周辺における地区計画の活用や官民連携による朝霞駅周辺と一体的なにぎわいや活力の創出 **全①**

凡例

■ 市街化区域
● にぎわいと活力の創出を図る拠点
■ 既存商店街
■ 都市機能誘導区域
■ 新たな拠点形成ゾーン(基地跡地)
■ 地区計画を活用したにぎわい・活力の創出を図るエリア
■ 企業等との連携を図るエリア
■ 地区計画を活用した産業用地の創出を図るエリア
■ 工業系用途地域
■ 河川等
■ 国道
■ 补助幹線道路
■ 主要生活道路
■ 整備済みの都市計画道路
■ 未整備の都市計画道路



特徴

- ・工業系用途地域において、住宅用地が多くみられ、住工混在となっている

取組

- ・膝折町や栄町等に立地する企業との連携・協働（地域に配慮した空間形成） **全⑤**

特徴

- ・商店街において商業用地がほとんどみられず、主となる土地利用が住宅用地となっている
- ・空き地となっている箇所もみられる

取組

- ・膝折町、幸町、本町、栄町等の既存商店街を活用した生活に身近な商業環境の充実に向けた支援 **全⑧**

特徴

- ・街道筋としての歴史的文化資源が存在する
- ・川越街道は交通条件が良く、朝霞警察署跡地等を含め、沿道の更なるにぎわい創出の可能性がある

取組

- ・膝折町や溝沼等の地域特有の資源（宿場町の歴史や坂が多い地形等）を生かした、にぎわいづくり **全⑦**
- ・川越街道（国道 254 号）や旧川越街道の交通条件と地理的優位性を生かし、朝霞警察署跡地等を含め、沿道のにぎわい創出に向けた土地利用の誘導 **全⑥**

特徴

- 地区公園や近隣公園、街区公園が多く分布しており、地域のほとんど のエリアは公園の誘致圏にカバーされている
- 基地跡地はみどりの拠点機能を備え、適切な土地利用を図るための地 区計画が定められている

取組

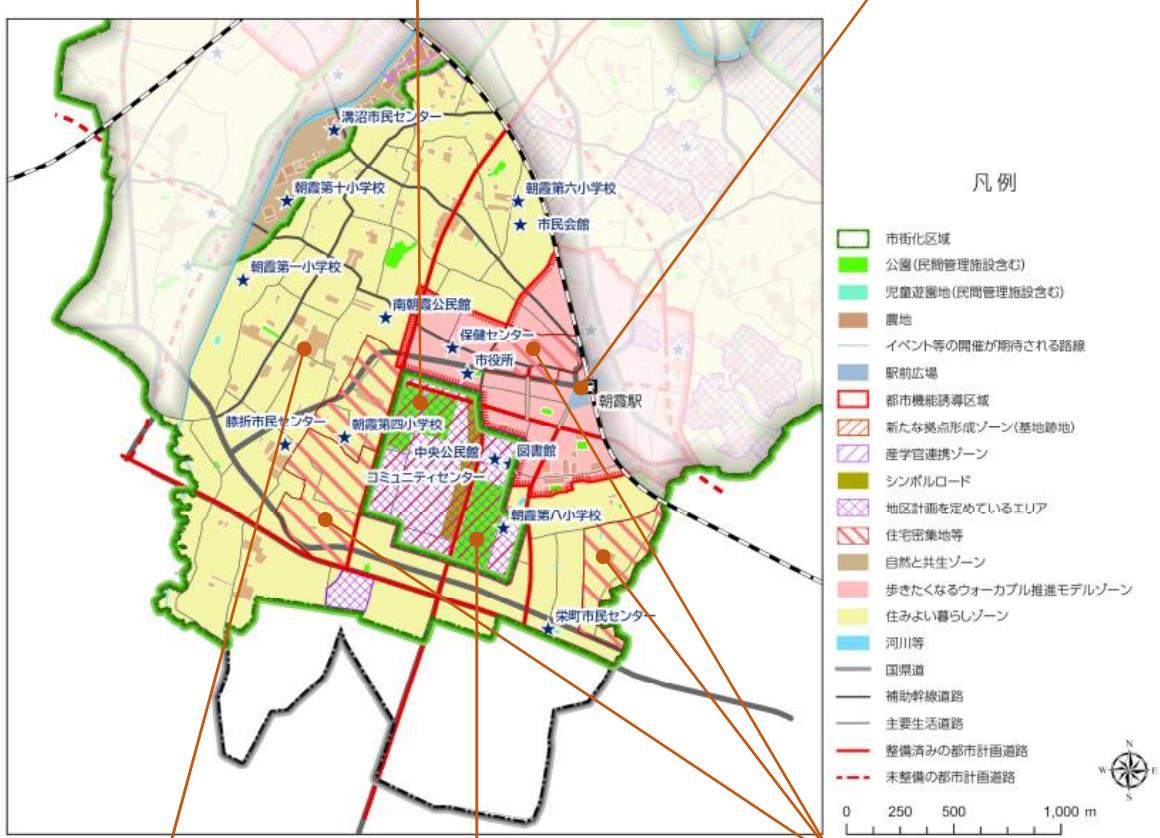
- 基地跡地利用計画、基地跡地地区地区計画、基地跡地公園・シンボル ロード整備基本計画に基づく施設整備及び土地利用の推進 全④
- 公園や広場等の公共空間の利活用 全②

特徴

- 朝霞駅周辺への都市機能 （商業施設や公共施設 等）の充実が求められて いる

取組

- 朝霞駅周辺への商業施設 等の誘導や利便性の高い 公共施設の集約化 全④



特徴

- 市街地内にも農地やみどりが多く残されている

取組

- 自然環境（地区内の農地 等）と調和した住環境の 維持・向上 全②
- 自然（保全すべき農地） との共存に配慮した土地 利用の推進 全③

特徴

- 朝霞駅周辺では、公共空間を活用 したイベントが継続的に開催され ている

取組

- シンボルロードの歩行者利便増進 道路指定による道路空間の利活用 全⑧
- オープンスペースの創出（駅前広 場、道路）と、公共空間を活用し たイベントの実施（ASAKA STREET TERRACE 等） 全⑦

特徴

- 幸町、本町、栄町の住宅 密集地では地震・火災に よる延焼リスクが高い
- 狭い道路や行き止まり 道路が多く避難を阻害

取組

- 幸町・本町・栄町周辺の 住宅密集地における生活 道路の拡幅 全②

5) 南部地域の取組総括図

ここでは、4)で整理した各テーマ及び地域のまちづくり方針に対する取組を場所や地区単位で再整理しました。

<南部地域の取組総括図>

【地域全体】

- ・ 準防火地域での防災対策の推進
- ・ 生き物が集う緑地、湧水の保全
- ・ 都市農地の保全や有効活用
- ・ 通学路や危険な交差点等における安全対策の充実
- ・ ゾーン30・ゾーン30プラスエリアの指定による面的な交通安全対策
- ・ 安全で連続した自転車通行空間の確保
- ・ 市道1号線の連続した歩行空間の確保
- ・ 橋梁の適切な維持管理
- ・ 公園や広場等の公共空間の利活用
- ・ 自然環境(地区内の農地等)と調和した住環境の維持・向上
- ・ 自然(保全すべき農地)との共存に配慮した土地利用の推進
- ・ オープンスペースの創出(駅前広場、道路)と、公共空間を活用したイベントの実施(ASAKA STREET TERRACE等)

【既存商店街】

- ・ 膝折町、幸町、本町、栄町等の既存商店街を活用した生活に身近な商業環境の充実に向けた支援



【膝折・溝沼地区】

- ・ 水害リスクの低減に向けた雨水・排水対策の検討(水路・側溝の改修等)
- ・ 総合的な治水対策の検討(国や県と連携した特定都市河川の指定等による流域治水の検討)
- ・ 浸水想定区域内での開発と合わせた水害対策の指導(雨水流出抑制施設の整備や垂直避難ができるようにすること、避難行動計画を策定し訓練を定期的に行うこと等)
- ・ ひざおり通り等の坂道周辺における、まちなかベンチの設置
- ・ 地域と連携した多様な移動手段の検討(膝折、溝沼地区の一部における、わくわくワゴン等)
- ・ 膝折町や溝沼等の地域特有の資源(宿場町の歴史や坂が多い地形等)を生かした、にぎわいづくり
- ・ 膝折町等に立地する企業との連携・協働(地域に配慮した空間形成)



【黒目川周辺】

- ・ 黒目川右岸沿いの家屋倒壊等氾濫想定区域等、災害の危険性の高いエリアからの居住の誘導
- ・ 黒目川周辺の水辺空間の保全・活用(川沿いの親水性の向上)
- ・ 景観の保全を進めるための景観づくり重点地区の指定の検討(黒目川周辺)
- ・ 市民との協働による桜並木の適正な維持管理



【基地跡地及びその周辺】

- ・ 基地跡地の防災拠点化の検討
- ・ 駅前通りやシンボルロード等の無電柱化の促進
- ・ 貴重な湧水である広沢の池の保全
- ・ 基地跡地公園の整備
- ・ みどりの拠点の形成・利活用(周辺施設と連携した地域の交流や活性化の推進)
- ・ 基地跡地周辺における地区計画の活用や官民連携による朝霞駅周辺と一体的なにぎわいや活力の創出
- ・ 基地跡地利用計画、基地跡地地区地区計画、基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画に基づく施設整備及び土地利用の推進
- ・ シンボルロードの歩行者利便増進道路指定による道路空間の利活用



【5つのテーマとの対応】

- | | | |
|---|---|---|
|  安全・安心 |  自然・環境 |  快適な移動 |
|  にぎわい・活力 |  私らしい暮らし | |

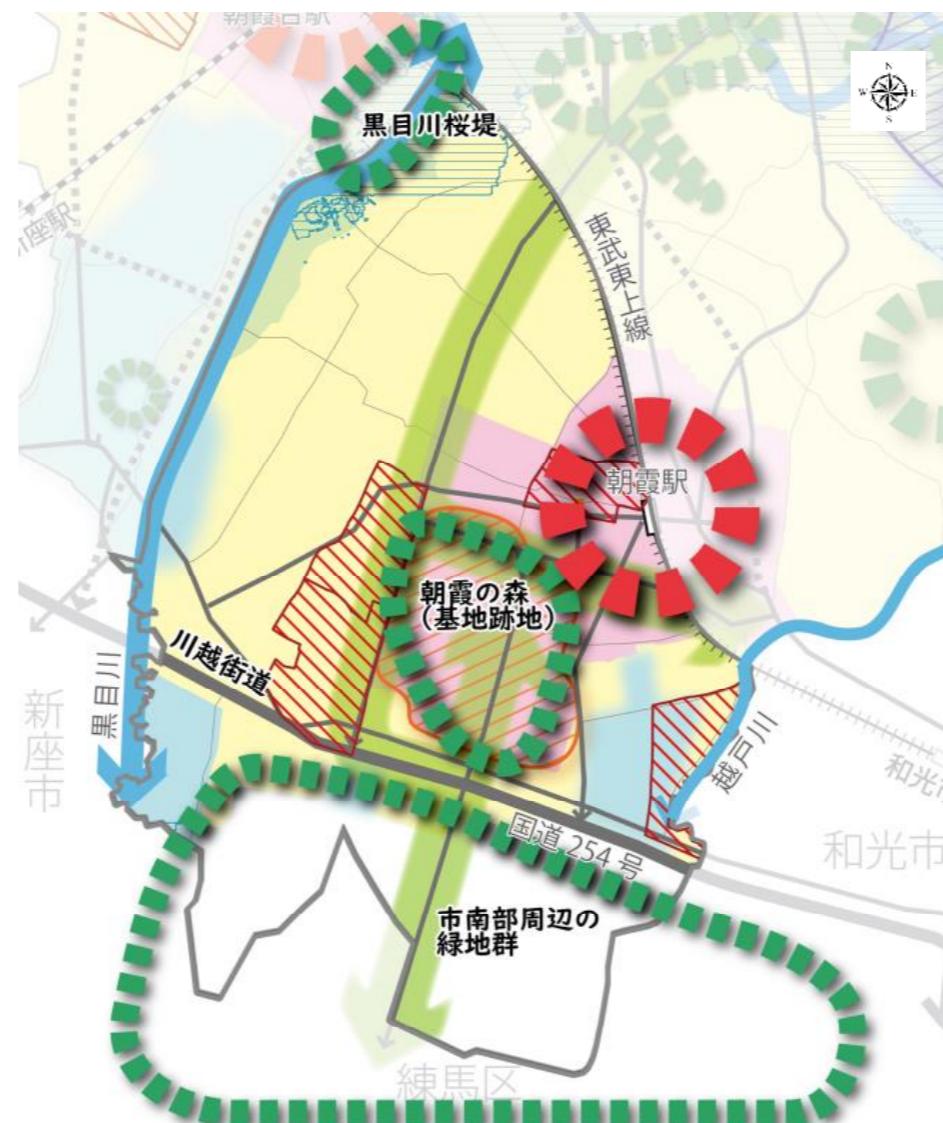
凡例

- 【方針1に関する凡例】
-  水害による浸水リスクの低減を図るゾーン
 -  地震・火災による延焼リスクの低減を図るゾーン(住宅が密集しているエリア)
 -  地震・火災による延焼リスクの低減を図るゾーン(延焼クラスター)
 -  交通安全対策の強化を図るゾーン
 -  その他の凡例
 -  住みよいくらしゾーン

- 【方針2に関する凡例】
-  みどりの拠点
 -  みどりの軸(道路軸)
 -  みどりの軸(河川軸)

- 【方針3に関する凡例】
-  都市拠点
 -  駅周辺でにぎわいの形成を図るゾーン
 -  企業との連携・協働を図るゾーン
 -  新たな拠点形成ゾーン(基地跡地)

- 【その他凡例】
-  鉄道
 -  JR
 -  道路(国道)
 -  整備済
 -  未整備
 -  道路
 -  整備済
 -  未整備



【朝霞駅周辺】

- ・ 駅前通り等の無電柱化の推進
- ・ 駅周辺におけるバリアフリー化やユニバーサルデザインにも配慮した交通結節機能の強化や、人を中心のウォーカブルな空間の確保
- ・ 朝霞駅南口周辺地区交通安全対策基本構想に基づく交通安全対策(駅前通りの一方通行化等)
- ・ 市役所をはじめ、主要な公共施設の立地を生かし、朝霞駅前の活性化と連動した回遊性の高い歩道・広場の設置・充実等により中心拠点としての魅力向上
- ・ 朝霞駅周辺への商業施設等の誘導や利便性の高い公共施設の集約化



【アンダーパス】

- ・ 鉄道を横断するアンダーパス部(本町隧道)等の浸水対策の検討



【みどりの軸】

- ・ 市道2号線、市道1000号線、市道8号線の街路樹の育成や沿道の緑化による、みどりの軸の形成



【川越街道】

- ・ 旧川越街道の歴史的文化資源(膝折宿)の保全とまちづくり資源としての活用
- ・ 川越街道(国道254号)や旧川越街道の交通条件と地理的優位性を生かし、朝霞警察署跡地等を含め、沿道ににぎわい創出に向けた土地利用の誘導



【幸町・本町・栄町地区】

- ・ 防火・準防火地域の指定による防災対策の推進
- ・ 幸町・本町・栄町周辺における住宅密集地の防災機能強化や私道を含めた狭あい道路の交通環境の整備、防火対策の推進
- ・ 栄町等に立地する企業との連携・協働(地域に配慮した空間形成)



方針1 地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクの低減に向けた対策の充実と、交通安全対策の強化により、誰もが安全・安心に生活できる住環境を整えます。

方針2 黒目川の水辺空間や基地跡地等のみどりが残る豊かな自然環境や、川越街道の歴史的文化資源等の適切な維持管理・活用を図ります。

方針3 朝霞駅や基地跡地周辺の充実した都市機能や公共空間を生かし、官民連携による一体的なにぎわいや活力の創出を図るとともに、地域内に立地する企業等との連携・協働による地域経済活性化に向けた取組を推進します。